



ISET-R NEWS LETTER

12/27/2012 VOL. 1, ISSUED BY ONDA LAB, UNIVERSITY OF TSUKUBA

2012年8月19・20日新領域キックオフミーティング開催！ @ 成田ビューホテル



2012年8月19、20日に渡り、成田ビューホテルにおいて、新領域キックオフミーティングが開催されました。当日は下記の日程のとおり一日を通してミーティングが行われ、会議を終えた多くの参加者は疲労困憊ではありましたが、大変有意義なミーティングとなりました。

8月19日

10:30-12:00 全体会議 (1) 全体の概要・三沢学術調査官からのご挨拶、総括班について

12:00-13:00 昼食・休憩

13:00-14:00 班ごとの小ミーティング

14:00-14:30 休憩

14:30-17:30 全体会議 (2) 各班の調査内容の紹介と議論

17:30-19:30 夕食・休憩

19:30-21:30 全体会議 (3) 各班の調査内容の紹介と議論とまとめ

21:30- 個別議論 (夜通し熱い議論が行われました！)

8月20日

08:00-09:00 総括班会議

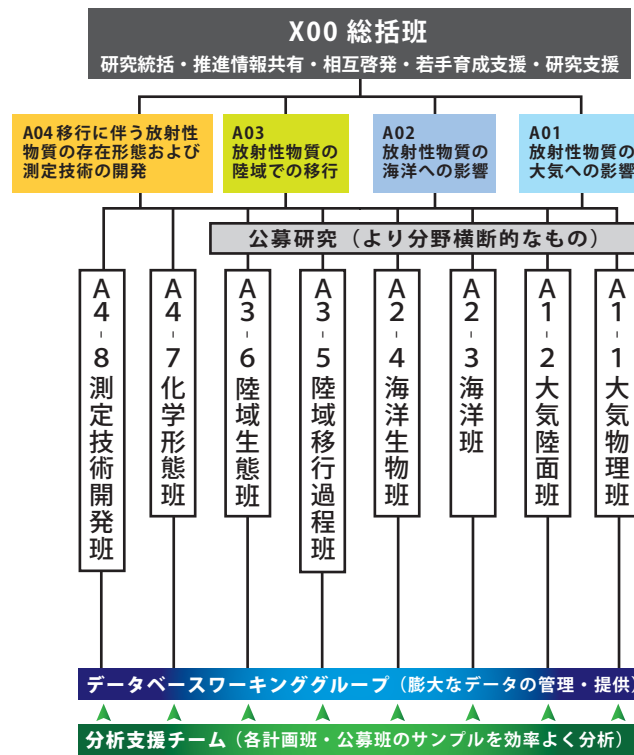
09:00-12:00 班会議 (optional)

現在、我が国の学術水準の向上強化につながる新たな研究領域の創出、また立ち遅れている領域の進展のため、データの相互情報交換を行い、有機的な結びつきを重視した研究が求められています。

同時に、それまで交流のなかった分野の研究者同士のネットワーク提携の強化が期待されますが、現時点では不十分であると言わざるを得ません。

今後のさらなる研究展開には、示された研究結果の影響などについて明るい社会科学研究者や実務担当者らを含めた、助言・評価グループの必要性が挙げられます。

さらにこれまでの調査では、放射性物質の分布、移行、存在形態などの環境動態を総合的に扱う学問はありませんでした。放射性物質は様々な環境で形を変えて移動をしているため、存在形態の解明と新たな測定技術が必要となります。また、各省庁による調査では、海洋、大気に関する調査が不十分で限定的である点が指摘でき、調査研究のボトムアップが必要となってきます。



今回のミーティングでは、そのような課題や今後の展開についての議論が2日間に渡り進められました。

会議は19日の午前から開催され、まず三沢学術調査官からのご挨拶を頂きました。その後、全体の概要や総括班についての

説明があり、全体会議においては、総括班をはじめ、A01 から A04 まですべての班による研究報告が夜まで行われました。また、各班の報告に対して様々な意見が寄せられ、班を超えて活発な議論が展開されました。



白熱した議論は予定されていた時間内に収まらず、一旦は閉会となったものの、その後も自然と話し合いの輪ができ、夜通し話し合いが行われました。翌日 20 日も朝から会議が行われ、時間の許す限り絶え間なく議論を交わしました。



今後に向けて

今後の課題として、研究をフローとして考慮した場合、現時点では連続した成果とは言えない部分もあり、隙間を埋めていく必要性が浮き彫りとなりました。

総じて、各人・各チーム単体ではできないような研究を連携して進めていく必要性が強く求められ、アウトリーチにとらわれすぎず、新しい学術領域を立ち上げるといった視点を明確にすることが望まれます。

